

科目名	言語教育学特講	担当者	シマダ 島田 めぐみ	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	---------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>世界中の外国語教育に影響を及ぼしているCEFR (Common European of Reference for Languages, ヨーロッパ言語共通参照枠) が日本での英語教育や日本語教育などの外国語教育にも影響を及ぼし、様々なテストやカリキュラムに活用されている。そのCEFRの理念を正しく理解し、実践例を学ぶ。その上で、教育現場に適応する方法を考察する。</p> <p>また、言語教育学の重要な分野の一つが第二言語習得論である。第二言語習得論を理解した上で、日本語教育を検討・実践できるようになることを目指す。</p> <p>以上の目的を達成することにより、論理的・批判的思考力、問題解決能力、挑戦力、指導力、自己分析能力の向上を目指す。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 言語教育学の基礎となる理論、理念に関わる知識を理解し、応用する力を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ CEFR の理念を説明することができる。</li> <li>・ CEFR の適用例を評価し、論述することができる。</li> <li>・ 言語習得の事例を第二言語習得論に基づいて説明することができる。</li> <li>・ 外国語教科書の指導項目を第二言語習得論に関係づけることができる。</li> </ul>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ manaba folio 上で、レポートのピア・レスポンス等、受講者同士の協働学習を行う。</li> <li>・ manaba folio を通じて教員とインタラクティブな個別指導を受ける。</li> <li>・ manaba folio を利用し、ポートフォリオに基づき自身の学修を振り返る。</li> <li>・ 図書館、インターネットで関連論文の検索を行う。</li> </ul> <p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>(自習) 教材と関連文献を熟読する。15 時間  (自主研究) 課題に関し、事例研究を実施する。10 時間  (レポート作成) レポートを執筆する。10 時間  (ディベート) 他の受講者のレポートを読み、テーマに関し理解を深める。5 時間  (ディベート) 他の受講者のレポートについて感想・意見を述べる。5 時間  ★学修時間は課題レポート1件あたりの目安時間</p>		
スケジュール	<p>&lt;前期&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● レポート課題1 締切：6月末（初稿） （最終稿提出期限：学事歴で定められた日）</li> <li>● レポート課題2 締切：8月末（初稿） （最終稿提出期限：学事歴で定められた日）</li> </ul> <p>&lt;後期&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● レポート課題1 締切：11月15日（初稿）（最終稿提出期限：学事歴で定められた日）</li> <li>● レポート課題2 締切：12月末（初稿） （最終稿提出期限：学事歴で定められた日）</li> </ul>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80 %	形式（構成、引用の仕方、適切な表現）、内容（論旨の明快さ、独創性、課題把握の適切性） *後期のレポート課題2は最終試験として初稿で評価する。 *その他のレポートは、最終稿にて評価する。
	観察記録	20 %	ピア・レスポンスへの参加度、レポート添削への対応等
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教師によるフィードバック、必要に応じピア・レスポンスをもとにレポートを完成させることが求められる。</li> <li>・ 無断引用、不適切な引用がなされた場合は、不正行為とみなされ、失格となる場合がある。</li> </ul>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： キース・モロウ            教材名： 『ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR) から学ぶ英語教育』(研究社, 2013)            ISBN: 978-4-327-41083-4 3,200 円+税</p> <p>本書は、キース・モロウ (Keith Morrow) 編纂の <i>Insights from the Common European Framework</i> を日本語に訳したものである。原著に「英語教育」の文言がないように、CEFR の考え方は日本語教育を含む外国語教育全般に影響を持っている。本書は、CEFR の現場への導入の意義、実践上の問題点や課題が扱われている。</p>
参考図書	<p>奥村三菜子・櫻井直子・鈴木裕子『日本語教師のための CEFR』(くろしお出版, 2016) ISBN: 978-4874247013 各 2,000 円+税            Council Europe. <i>Common European Framework of Reference for Languages: Learning, Teaching, Assessment Companion Volume with New Descriptors</i>. 2018            (<a href="https://rm.coe.int/cefr-companion-volume-with-new-descriptors-2018/1680787989">https://rm.coe.int/cefr-companion-volume-with-new-descriptors-2018/1680787989</a>)            程遠巍『中華世界における CEFR の受容と文脈化』(ココ出版, 2017) ISBN: 978-4904595893</p>
履修上のポイント	<p>CEFR は、言語教育に大きな影響を与えているので、理念をしっかり学んでほしい。その上でどのように活用できるか考察すること。また、2018 年に CEFR 補遺版 (Companion Volume) が発表され、上記の URL からダウンロードできるので、必要に応じ参照してほしい。</p> <p>CEFR に馴染みのない受講者は困難を覚えるかもしれないが、参考図書の『日本語教師のための CEFR』は非常にわかりやすく CEFR を解説しているので参考にしてほしい。</p> <p>ピア・レスポンスの活動を通して、他者の視点をも理解しながら、CEFR や言語教育に関する理解を深めること。</p>
レポート課題 1	<p>第 1 章から第 4 章を読み、CEFR の理念を整理し、日本や日本語に応用する場合どのような利点があるか、どのような点が問題になるか自身の考えを論じる。(3,000 字~4,000 字)  <b>留意点:</b> 日本や日本語に応用することを考える際、日本国内だけではなく、国外の教育場面についても考えること。日本語教育が専門ではない場合は、他言語に置き換えても可。</p>
レポート課題 2	<p>日本語教育における CEFR の活用・適用例に関する記事・論文 1~2 編読み、CEFR の理念に沿うものになっているか、第 5 章の活用例との相違点はどのようなものかを分析し、論じる。(4,000 字~5,000 字)  <b>留意点:</b> CEFR の活用例に関する記事・論文が見つからない場合は CEFR に基づいて構築された「JF 日本語教育スタンダード」の適用例でも構わない。日本語教育が専門ではない場合は、他言語に置き換えても可。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： 大関浩美            教材名： 『日本語を教えるための第二言語習得論入門』(くろしお出版, 2010)            ISBN: 978-4-87424-480-7 1,800 円+税</p> <p>日本語学習者の習得、誤用を理解するためには第二言語習得論の知識が重要であり、多くの書籍が出版されている。その中で、この書籍は日本語教育に関する事例が多く取り上げられ、非常にわかりやすく解説されている。また、過去の研究例も多く紹介されており、日本語教育を教えるために必要な理論、習得に影響を及ぼす要因などを理解するのに適している。</p>
参考図書	<p>小柳かおる「第二言語習得」『概説 日本語教育 -なぜ、なにを、どう教えるか-』(三修社, 2020) ISBN: 978-4-384-05973-1 2,400 円+税 (予定, 2020 年 3 月出版予定)            小柳かおる『日本語教師のための新しい言語習得概論』(スリーエーネットワーク, 2004) ISBN: 978-4-88319-326-4 1,600 円+税</p>
履修上のポイント	<p>第二言語習得理論を理解し、言語教育の現場に応用する力を身につけてほしい。言語教育を専門としていない受講者は、自身の言語学習に基づき考察すること。</p> <p>ピア・レスポンスの活動を通して、他者の視点をも理解しながら、第二言語習得に関する理解を深めること。</p>
レポート課題 1	<p>第 2 章、第 3 章、第 8 章、第 9 章、第 10 章を読み、中間言語や言語習得に及ぼす影響を理解した上で、自身の言語習得(どの言語でも構わない)あるいは学習者(自身が教授した学習者)の言語習得の事例を取り上げて、影響の観点から分析する。(3,000 字~4,000 字)  <b>留意点:</b> 専門が日本語教育でない場合は、他言語に置き換えても可。</p>
レポート課題 2	<p>第 3 章から第 10 章のいずれかの観点に基づいて行われた研究論文を 2 編以上読んで、それらの論文の内容を要約する。(4,000 字~5,000 字)  <b>留意点:</b> 選択した 2 編以上の論文を単に要約するのではなく、共通点、相違点など分析しながらまとめること。専門が日本語教育でない場合は、他言語に置き換えても可。</p>

### 基本教材 1

第 1 回	教材の学修：基本教材 1 の第 1 章, 第 2 章
第 2 回	教材の学修：基本教材 1 の第 3 章, 第 4 章
第 3 回	CEFR の日本・日本語への適用に関する検討
第 4 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 5 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 7 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 8 回	教材の学修：基本教材 1 の第 5 章
第 9 回	CEFR 関連記事・論文の検索・検討
第 10 回	CEFR 関連記事・論文の検索・検討
第 11 回	CEFR 活用例の検討
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

### 基本教材 2

第 1 回	教材の学修：基本教材 2 の第 1 章～第 3 章
第 2 回	教材の学修：基本教材 2 の第 8 章～第 10 章
第 3 回	事例の分析
第 4 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 5 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 7 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 8 回	教材の学修：基本教材 2 の第 4 章, 第 5 章
第 9 回	教材の学修：基本教材 2 の第 6 章, 第 7 章
第 10 回	関連項目の検討・分析
第 11 回	関連項目の検討・分析
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成